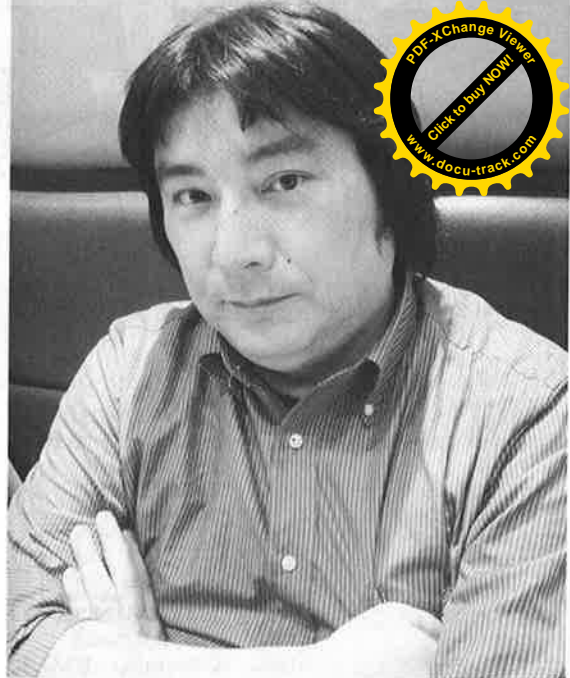




本をソーシャル商品に 今一生氏の執筆活動



■今一生（こん・いっしょう）氏は1965年生まれ。89年頃からフリーライターとして活動。97年、自ら立ち上げた編集チーム名義の『日本一醜い親への手紙』がベストセラーに。99年刊行の『完全家出マニュアル』（メディアワークス）で「プチ家出」が流行語となる。本文中で紹介する以外の近著に『親より稼ぐネオニート』（扶桑社新書）。復刻についての詳細などを記したブログ＝<http://www.createmedia.co.jp/>

ベストセラー「日本一醜い親への手紙」復刻へ

印税を被虐者支援に

一九九七年に刊行された『日本一醜い親への手紙』（メディアワークス）は、児童虐待の問題を専門家でなく当事者たちの言葉でまとめた一冊として注目を集め、当時一〇万部のヒット作となった。著者であるフリーのライター＆編集者・今一生（こん・いっしょう）氏は現在、再編集した同書の復刻を進めており、その印税収入の10%（販売価格の1%）を、被虐者たちの自立支援プログラムに寄付するという。出版を通じて寄付などの慈善事業は以前からあるものだが、「その本をだす理由」が強く問われるなか、このような活動は今後、さらに注目を集めそうだ。今氏に話を聞いた。（編集部）



日本一醜い親への手紙
紙
蔵
選
版
100
通

渡辺啓市

（宮城／ブックスなになわ）

彼女は「カバーかけてください」と言
い、当然のように会計を済ませ去って行
った。

「『日本一醜い親への手紙』のハザードも酷くなっている。これまで以上に、具体的な解決に関わってほしい」と。最新刊の『奪われた性欲』（メディアワークス）も、精力が衰えた若者の現状を紹介しつつ、じつはその若者たちへの叱咤激励が目的と認める。同じ〇八年刊行の『社会起業家に学べ』（アスキー新書）も、本をだすだけでなく、社会を委

読者も購読通し 社会活動に参加

「これまでの社会的規範にそえない若者が活躍するために社会起業家が増えている」と考え、イベントも開催している。出版に関する社会起業家もいて、ノンカフェックス（作家の荒木マサシ氏が主宰）は、なるべく紙を無駄にせず、とびへばき人に必要な数だけという意図が常にあらわの。この本をだす理由が強く問われるなか、このような活動は今後、さらに注目を集めそうだ。今氏に話を聞いた。（編集部）

け本がとどくモデルに取り組んでいる。地方の印刷所を有効に使う。書店に送りつけて一カ月したら店頭になくなくなるとはめようという提案は正しい」と。印税の一部を関連団体への寄付は『社会起業家に学べ』から始めたところだが、きっかけは。

「出版業界も、企業や個人によってはかなり苦しくなっている。それでも本に関わるのは何故か、が問われている。いまの出版市場についての見解を。」

「自殺、ニート、児童虐待といった僕の執筆テーマは、社会のキーワードではあるが、実態は当事者の少ないマイノリティアーマーケット。何十部も売れることはない。小ロットや電子書籍のような届け方が進化してほしいし、たとえば単行本の電子版を安易に低価格で売るといった動きには疑問を覚える。著者を活かせる構造作りを目指してほしい。僕のように現場の生の声を伝えるタイプは、新興の小さなネット企業や各地域の福祉施設など、やはり現場の人と接したときのほうが手応えがある。同様に、書店の人に応援されたときもは励みになる。」

「『七七年の『プライド』は、勝間和代さんらの募金活動『Chabor』などもあるが。」

「同じ趣旨の著者の動きに、勝間和代さんらの募金活動『Chabor』などもあるが。」

出版界への注文

「出版業界も、企業や個人によってはかなり苦しくなっている。それでも本に関わるのは何故か、が問われている。いまの出版市場についての見解を。」

図書館、重要な指標に ワークフローも発想転換

「『僕はその期待していない。書店より、多くの図書館が今一生の新刊を」

「『僕はその期待していない。書店より、多くの図書館が今一生の新刊を」

「『僕はその期待していない。書店より、多くの図書館が今一生の新刊を」

「『僕はその期待していない。書店より、多くの図書館が今一生の新刊を」



「『僕はその期待していない。書店より、多くの図書館が今一生の新刊を」



2009年に話題になった「最優秀新作絵本」12点

〈アメリカ〉アメリカの出版業界誌パブリック／BL出版より発売予定）は二

そんな華やかなタイトルの中にあるのがジェリー・ピンクニーである。類を見ない描写力で、しかし明るくユーモラスに描いた『THE LION & THE MOUSE』（リトル・ブラウン刊）は文字のない絵本だ。